

第2回 北九州市営バス事業あり方検討会議
交通体系検討部会 会議録（要旨）

1 開催日時 令和元年11月14日（木）15時30分～17時10分

2 開催場所 北九州市役所本庁舎5階 プレゼンルーム（北九州市城内1-1）

3 出席者

【構成員】 50音順 敬称略

内田部会構成員、小島部会構成員、児玉部会構成員（副部会長）、塚本部会構成員（部会長）、宮崎部会構成員、山塚部会構成員

【事務局】

交通局次長、総務経営課長、営業推進課長、経営企画係長 他1名

4 議題 ・地域交通の維持の方策

5 主な発言内容

（1）乗合バス事業について

■路線について

- 乗合型タクシーの配車を、スマートフォンやパソコンから予約・キャンセルができるシステムを利用している民間事業者の事例がある。
- 運転者不足等の共通の課題がある中で、公共交通機関同士（JR、バス等）で競合するのではなく、今後は役割分担することでお互いのメリットがあるのではないかと。
- 市の交通総合戦略に掲げている幹線・支線の役割分担に沿って市営バスを運行していくことが、今後の大きな方向性になるのではないかと。
- 地域公共交通の再編計画を策定して、国からの補助を活用してはどうか。
- 回送の活用方法はないのか。回送を利用した実証実験や新幹線の回送を活かした博多南駅の例もある。

■バス車両について

- 車両の老朽化の現状を教えてください。
（回答）一番古いもので平成2年導入のものがある。平成16年から平成21年度まで経営改善の観点から車両の更新を控えていた時期があるため、車齢が古くなってきており、部品確保の問題や安全上の観点からも支障がある。
今後は中古車両の導入などの手法を使いながら車両を更新していきたいと考えている。

- 10人乗りの小型車両の導入は決定しているのか。
(回答) 導入するという意向は決定しているが、具体的にどの路線に導入するかを精査しているところである。小型車両の導入は初めてのことなので、来年度は問題の洗い出しを含めた試行期間になる。

■バス停留所について

- スマートバス停の導入は、利用者の時刻表等の視認性向上や、バス停掲示作業の削減効果がある。
- コンビニや病院にバスの時刻表モニターを置くなど、バス停の拠点機能と沿線の利用との融合を図っていけば、バス利用客の増加につながると思う。

■バスの利用促進について

- 北海道にある十勝バスでは、バス停周辺の住民を戸別訪問し、路線図や目的別の時刻表を配布した結果、乗合収入が増えたという事例がある。
- 十勝バスがやっている路線沿線の住民の戸別訪問のようなモビリティマネジメントを市営バスでも継続して行うべき。
- 市営バスでは住民への説明・PRを行っているのか。
(回答) 自治会等に出向き利用促進を行っているが、年度によりばらつきがある。
- モビリティマネジメントはバス会社本来の営業活動ともいえるが、そこまでできる余力がないというのが現状だと思う。
- 転入してきた人は地名に詳しくないこともあり、バスの利用に不安があると思うので、転入してきた人へのPRが必要だと思う。
- 市営バスの将来的かつ具体的な姿を住民に見せていかないと住民の不安払しょくにはつながらないと思う。
- 将来的には運賃の決済までできるようなM a a sアプリの導入も将来の公共交通の維持のためには必要だと思う。
- アプリを作っても、それをどうやって人に使ってもらうかの課題もある。

(2) 運転者の確保について

- 交通局で現在行っている運転者確保の取組みを教えてください。
(回答) 大型二種免許の取得支援制度として、大型二種免許の取得費用の貸付・給付を行っている。また、以前2カ月毎だった乗務員の募集を今年度から随時募集に移行した。併せて、求人情報を就職情報誌に掲載するなど周知方法を幅広く行っている。

- 民間交通事業者においては、大型二種免許を取得していない職員については、免許取得まで3年ほど掛かるため、事務員として勤務させている。
- 北海道と沖縄とのバス会社の間で繁忙期のズレを利用して、乗務員・バスガイド・車両を派遣し合っている民間事業者の事例がある。

6 問い合わせ先 交通局総務経営課経営企画係
電話番号 093-771-8401